

文化経済論

担当者 狭間 恵三子

開講時期 後期 単 位 2

●講義の概要

文化経済学とは、芸術・文化を対象とする経済学です。芸術・文化が経済学の対象となった背景には、社会において、芸術・文化が、産業の発展や経済活動に大きな影響を及ぼすと評価されてきたことの証ともいえます。

まずは、どのような社会状況、問題意識のもとで現在の文化経済学が形成されてきたのかを学び、文化と経済との密接なつながりを理解します。

そして、文化産業やクリエイティブ産業の理論と実態を学び、文化による都市や地域の再生、文化による観光振興など、文化と地域経済との関わり、文化政策の意義について探求します。

●講義の到達目標

地域振興、観光等における文化の役割を理解できる。文化政策の経済学的側面を理解するとともに、文化政策の多様な役割について考察することができる。

●講義計画

- 第1回：文化経済学とは何か
- 第2回：文化経済学とラスキン
- 第3回：芸術と経済のジレンマ
- 第4回：文化ホールの経済効果
- 第5回：文化政策の国際比較
- 第6回：発表、グループディスカッション①
- 第7回：祭りはコミュニティの大きな力①伝統的祭り
- 第8回：祭りはコミュニティの大きな力②新しい祭りの創造
- 第9回：現代アートと地域振興①大地の芸術祭
- 第10回：現代アートと地域振興②瀬戸内国際芸術祭
- 第11回：観光と文化
- 第12回：歴史文化をいかしたまちづくり、観光振興
- 第13回：発表、グループディスカッション②
- 第14回：都市再生と文化 —「欧州文化首都」から考える
- 第15回：現代の企業経営とフィランソロピー

●成績評価基準と方法

・評価方法

発表・ディスカッションへの参画（50%）、レポート（50%）より評価します。

・成績評価基準

文化と経済の関係を、人々の生活、地域の経済活動、観光などの面から理解できたか、

豊かさとは何かについて幅広い視点で考えられるようになり、そのような視点から文化と経済のかかわりについて意見を述べることができるか。また自分の意見を適切に文章にまとめることができるか。

●テキスト又は参考文献

梅棹忠夫監修『文化経済事始め』学陽書房 1983年

池上惇『文化経済学のすすめ』丸善ライブラリー 1991年

ウィリアム・J・ボウモル&ウィリアム・G・ボウエン

池上淳&渡辺守章監訳『舞台芸術 芸術と経済のジレンマ』芸団協出版部 1994年

デイヴィッド・スロスビー 中谷武雄・後藤和子監訳『文化経済学入門』日本経済新聞社 2002年

国連貿易開発会議 明石芳彦・中本悟・小長谷一之・久末弥生訳『クリエイティブ経済』ナカニシヤ出版 2014年

後藤和子・勝浦正樹編『文化経済学 理論と実際を学ぶ』有斐閣 2019年

・テキストは使いませんが、必要に応じてプリントを配布します。授業の中で参考文献を提示します。

●受講上の留意点

発表の機会を設けて学習を進めたいと考えます。ディスカッションへの積極的な参加を期待します。